

# 篠ちゃんだより

29号  
09.10.29

## 9月定例会開催される

9月定例会が9月16日から10月の日まで、21日間の日程で開催され、慎重審議の結果、原案の通り可決されました。主な内容は次のとおりです。

### 平成20年度渋川市一般会計継続費清算報告

第二庁舎整備事業、(仮称)保険センター建設事業、北橋幼稚園建設事業及び渋川公民館建設事業が完了しました。

事業名	支出済額	財源内訳	
		地方債(合併特例債)	一般財源
第二庁舎整備事業	110,502,200円		110,502,200円
保険センター建設事業	224,616,700円	212,600,000円	12,016,700円
渋川公民館建設事業	179,314,100円	167,900,000円	11,414,100円
北橋幼稚園建設事業	482,754,065円	417,700,000円	65,054,065円



渋川市議会議員  
しのだ 徳寿

[後援会事務所]  
大同特殊鋼(株)  
渋川工場労働組合内  
TEL 0279-23-5198  
FAX 0279-24-3820  
\*ご意見、ご感想などお寄せください。



新築された北橋幼稚園



旧北橋幼稚園

### 国保税の条例改正により 出産育児一時金は40万円に

今回の改正は、被保険者が平成21年10月から平成23年3月までの間の出産に係る出産育児一時金に関する経過措置です。現行36万円が40万円となります。

### 福祉医療費の条例改正により 中学卒業まで医療費は無料に

群馬県福祉医療費補助金交付要領の改正に併せ、本市子育て支援の一層の推進を図るため、改正するものです。本市は、小学校卒業までの通院及び中学校卒業までの入院の医療費が無料になっていましたが、本年10月より、中学校卒業まで入院・通院とも無料となりました。医療費の負担割合は、県が2分の1、市が2分の1となります。

### 八木原西原公園・八木原高田公園を 開発行為により設置

民間の会社が住宅地として販売している土地であり、総面積の3%以上を公園として設置しなければなりません。その後、渋川市の公園として管理することとなりますが、両公園とも年度内は市の直轄で管理しますが、来年度からは、公共施設管理公社に依頼すると説明がされました。

住宅地内の公園であり、除草などの管理は地域で管理すべきであり、遊具の点検や整備については、業者をお願いしてはどうかと質問しました。今後、公園の管理のあり方については、検討したいと答弁がされました。



八木原西原公園



八木原高田公園

### 伊香保観山広場整備概要説明される

既存の石段から県道渋川松井田線に向けて整備することで、県道から石段が望めるようになります。

延長 約70m(約90段)  
幅員 既存の石段と同幅員の6mとし、その後、県道に7.5m、最終的に15mと徐々に広げる。  
材質 安山岩を使用



石段から見た整備中の観山壮跡地

## 平成20年度茨川市決算を認定

一般会計の収入済額は336億3604万5000円です。予算現額361億8578万6000円に対する収入率は93%（前年度97.9%）、調定額374億8244万1000円に対する89.7%（前年度95%）です。

不納欠損額は1億6493万円です。最大で5年が経過しても納入できないことから、欠損処理されます。主要要因は、生活困窮・居所不明などです。

また、住宅新築資金等貸付金、茨川市民ゴルフ場河川占用料及び生活保護費繰替金戻入の収入未済額は多額で、前年度に比べ増加しており、受益者負担の原則等からもその解消が強く望まれます。

## 決算収支の状況

一般会計の実質収支額は10億6172万6000円、これから前年度の実質収支額を引いた単年度収支額は、4億784万4000円の赤字です。これに財政調整基金への積立金、地方債繰上償還額と基金からの取崩し額を加減した実質単年度収支額は12億1811万1000円の赤字ですが、前年度赤字額17億1163万2000円と比べるこやや好転しています。

特別会計の実質収支額は5790万6000円で、これから前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支額は、7146万2000円の赤字です。これに基金への積立金と基金からの取崩し額を加減した実質単年度収支額は、3億2153万8000円の赤字ですが前年度赤字額5億4161万4000円と比べるとやや好転しています。

## 財政分析指標の状況(普通会計)

### ・財政力指数 0.69

財政力指数は、基準財政収入額（標準的な状態で見込まれる税収入）を基準財政需要額（合理的、かつ、妥当な水準で行政を行うための財政需要）で除した過去3年間の平均値であり、普通交付税の算定に用いられます。1に近いほど財源に余裕があるといえます。

### ・経常収支比率 95.3%

財政構造の弾力性を判断する指標であり、人件費・扶助費・公債費等の経常的経費に地方税・普通交付税等を中心とする経常的一般財源がどの程度充当されているかを表す比率です。おおむね70%～80%間に分布するのが望ましいと考えられていますが、80%を超える場合は経常経費の抑制に留意しなければなりません。

### ・公債費比率 11%

市債の元利償還金に充当された一般財源の標準財政規模に対する比率であり、10%までが健全で15%を超えるに要注意、20%を超えると危険といわれています。特別会計などへの繰り出しを含めた実質公債費比率は、11.6%です。18%以上は、地方債の発行に国の許可が必要とす

## 水道事業会計

給水人口は7万2595人で前年度の比べ316人の減少、給水戸数は2万6855戸で277戸の増加です。総排水量は1.6%の減少、有収水量は2.4%の減少、有収率は83.2%で0.7%の減収です。給水原価は144円01銭、供給単価は126円95銭です。供給単価と給水単価の逆ざやにより3期連続の赤字決算となり、欠損額は4億6549万1000円となりました。

平成21年8月からの水道料金改定が赤字解消の一助となるものと思慮するが、節水意識の浸透や経済状況の悪化等により、給水量が減少する傾向の中で水道料金の増加が期待できないうえ、経常経費等の増加などが事業運営を脅かす要因となりつつあります。

水道事業全体の合理化、効率化や健全化に向けて、一層の努力が求められます。

## 病院事業会計

入院患者数は1万5533人、一日平均42.6人で、前年度に比べ24.1%の増加です。外来患者数については、4万571人、一日平均167人で、前年度に比べ22.3%の増加です。

職員数は114人で、医師9人、看護師42人、准看護師10人、医療技術員12人、事務職13人、労務職1人及び非常勤医師18人並びに臨時職員9人です。

医業収支は、収益9億1096万6000円に対し費用15億2203万8000円で、医業損失は6億1107万2000円です。前年度に比べ29%の減少です。当年度純損失は2億1345万6000円で、前年度繰越欠損金5億2073万4000円を加えると、当年度未処理欠損金は7億3419万1000円となりました。

施設・設備の整備として高精度放射線治療機器（リニアック）の導入を進めています。医師・看護師の確保など、病院経営の安定化を図ることが、地域住民の福祉の向上に繋がるものであり、改革プランの推進に、一層の努力が求められます。

## 阿久津市長施政方針

変化の時代を迎え、このような社会情勢の時こそ問われるのは、「地域力」だと思っています。多種多様な課題を解決していくためには、柔軟かつ多面的な仕組みをもっている市が、これからの厳しい時代に対応できる市であると考えています。

- ①市民主体の市政（市民との対話、公平公正な市政の執行、適切な施策の選択と優先順位の明確化、行財政改革）
- ②福祉・教育・文化重視の行政
- ③活力ある地域振興（茨川市株式会社の代表という気持ちで、市長自ら、トップセールスを行う）
- ④女性参加の地域おこし、街づくり